

浦島伝説

令和7年5月2日

第 4 号



なに 何も悪いことをしたわけではないのに、^{ごかい}誤解されてしかられた経験はありますか？そんなときは、^{せつめい}説明しても^わ分かってもらえず、つい、ふてくされ態度をとってしまったり、^{いか}怒りでうまく^{せつめい}説明できなかつたりしがちです。そこで、次の^{しょうかい}言葉を紹介します。

か で ん く つ い り か か ん む り た だ
瓜田に履を納れず、李下に冠を正さず

これは、中国南北朝時代（439～589年）の詩文集「文選（もんぜん）」に載っている言葉です。

瓜田とは、「うり」を栽培している畑のことです。うりはどんなところに実がなるでしょうか？同じウリ科のメロンを想像してもいいかもしれません。スイカと同じように^{じめん}地面の上でできますね。



^{くつ}履は、「はきもの」を表した漢字です。つまり、^{うり}瓜が生っている畑で^な靴をはき直したり、^{くつひも}靴紐を^{むす}結んだりしていると、^{しゅうい}周囲の人からは^{うり}瓜を盗んでいるように見えるということです。



^り李は「すもも」のことです。李下ということは、「すもも」の木の下ということです。^{かんむり}冠は、頭にかぶるもののことです。昔の中国では、^{ちい}地位や^{かいきゅう}階級などを示すために冠をかぶることが^{ふつう}普通でした。

もし、みなさんがおいしそうな^{もも}桃がなっている木の下でかぶっている^{ぼうし}帽子をかぶり直したりしたらどうでしょうか？その所作が^{しよさ}桃を盗んでいるように見える可能性があります。^{うり}瓜の畑のときと同じように、決して悪いことをしているわけではありません。しかし、^{ごかい}誤解をされるかもしれない。



中学生くらいになると、今の自分の^{いま}行動が他人から見た場合に、もしかしたら^{ごかい}誤解を招くかもしれないと考えられるようになります。決して悪いことをしているわけではなくても、^{ごかい}そう誤解されないために最初から^{さいしょ}時と^{とき}場所を^{ばしょ}考えて^{こうどう}行動することが求められます。

「そんなつもりじゃなかったのに…」^{ふだん}普段の会話でもありがちです。SNSではもっとありえます。もしかしたら自分が知らずに^{あいて}相手を^{きず}傷つけたり、^{おこ}怒らせたりしているかもしれません。^{あいて}相手のせいにすることなく、自分の^{げんどう}言動を見直すとこれからの人生がもっと^{ゆた}豊かになるかもしれません。